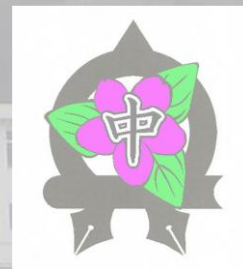


協働



2025年の奥多摩中学校

校長 原 善 哉

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年は巳年。蛇の成長のごとく、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく意味があります。また、奥多摩町の町制70周年、そして我が奥多摩中学校の開校10周年の年でもあります。まさに変化（成長）と発展が実現される記念の年にしたいです。

生徒達も、始業式には元気に登校し、新学期も気持ち良くスタートしました。今年も「もっと通いたい奥多摩中学校」の創造を方針として掲げ、たゆみなく取り組んでまいります。昨年より生徒会も、ポスターやスローガンに取り入れ、共に取り組んでいるので、とても頼もしく感じています。早速、始業式の放課後には生徒参加のレクリエーションを企画し、大いに盛り上がりました。生徒達なりの楽しい学校づくりを実践してくれています。

私たち教師の提供する中学校の楽しさとは、生徒達にとって「分かる」「できる」授業を実践することです。その達成感は自信となり、更なる学びへの意欲につながります。同時に生徒達が「分かろうとしていること」「やろうとしていること」を、私たち教師がしっかり「見ていること」「認めること」がいかに大切であるかを再確認していきたいです。

私は中学のとき、化石掘りにとても興味がありました。貝殻の化石を掘り当て、うれしさのあまりその石を、当時理科を教えてくださっていた T 先生のところへ持って行ったところ、学校の標本に加えてくださいました。

ある期末考査の理科テストに「実物の石を見て名前を答えなさい」という出題がありました。問題用に T 先生が持ってきた3つの石の標本の中に、なんと私の持ってきたあの化石の石が混ざっているではないですか。当然、知っている私にとってはラッキー問題。しかし私は T 先生がうっかり間違えて私の石を持ってきてしまったのだと思い、試験後に「先生、間違って僕の石を持ってきてしまいましたよ」とそっと報告に行きました。すると T 先生は微笑みながら「一生懸命やるヤツには、いいことがある・・・」とおっしゃいました。この言葉に、私はいただいたテストの2点よりも自分の取組を認めてくださったことが最高にうれしかったことを今でも覚えています。何気ない日常の関わりであったかもしれませんが、この経験は私にとって思い出に留まることなく、教職を選び今まで自分を支えてくれた、とても大きな出来事となりました。私たち教師の関わりや言葉というものは、その瞬間、瞬間に生徒達の意欲や進路、ひいては人生においても大きな影響力をもつことを改めて自覚し、肝に銘じたいと思います。

中学校の本分は、教科の学習です。とかく成績やテストの点数、高校入試に意識が向き、勉強とはつらさを乗り越えるものと思われがちではありますが、私はそれよりも、各教科がもっている魅力や学ぶ価値、人生においていかに役に立つかを伝えたい。「この勉強をすることで、こんなにいいことがたくさんあるのだ」と、いうことを生徒達に実感させてあげたい。生徒達の成長と変化を受けとめ、認め、応援できる「もっと通いたい奥多摩中」づくりを、改めて決意し、新年の抱負とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

1月「協力する」～チームワークを育て、お互いの思いやりの心を育てる～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
友達が何を考えているかを考える 自分の気持ちを友達に伝える いつも一人でやっていることを 友達とやってみる	クラスで気持ちを伝えあう 一人一人の役割を考えさせる 3年生はクラスで入試を乗り切る企画 を考える	お互いの気持ちを伝えあう 家族とはそれぞれの役割分担を実 行することで成り立ち、前に進ん でいることを伝える